

医療的ケアが必要な子どもたちと家族の欲張り拠点

～子どもたちの「やりたい」から地域をつなげて未来をつくる～



外出時の持ち物

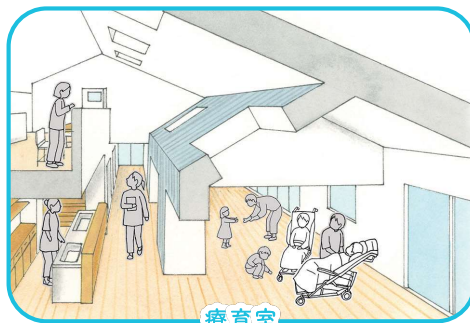
- 衛生用品
- 着替え
- 液体の食事
- 酸素濃度を測る機械
- 痰を取り除く機械
- 呼吸器
- 酸素ボンベ...
- 荷物は約15kg

ここを使う僕たちのこと

- ・ご飯を食べたり息をするために機械や大人の手伝いが必要なんだ。
- ・いつも寝たきりだから特注のバギーに乗ってるよ。
- ・バギーは丈夫に作っているから荷物と合わせると約30キロ!
- ・気軽なお出かけは難しいかな。
- ・時々発作が起きて、息ができなくなることもあるよ。
- ・でも楽しいことが大好き。いっぱい遊びたいな!

視点01

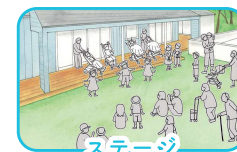
不安を安心に変え子どもたちの「やりたい」を育む空間



療育室

大きなバギーでもゆりのあるスペース。寝たきりでも感じる天井からの自然光、複数の医療機器使用を想定した電源確保。急変時の救急隊の導線も想定、入れ子状の療育室は自宅のような安心感をもたらし、子どもたちが「やりたい」に夢中になれる空間。

キッチンコーナーから子どもの様子やスタッフの動きが見渡せる。2階からは吹き抜けを通して気配を感じられる。スタッフ同士が自然と連携でき、安心して子どもの「やりたい」に向き合える。



ステージ

夏はプール、冬は日向ぼっこ。時には家族を招待してお遊戯の発表。子どもが思い切り楽しむ姿を見て家族は安心し、家族が自分の「やりたい」を取り戻すきっかけに。



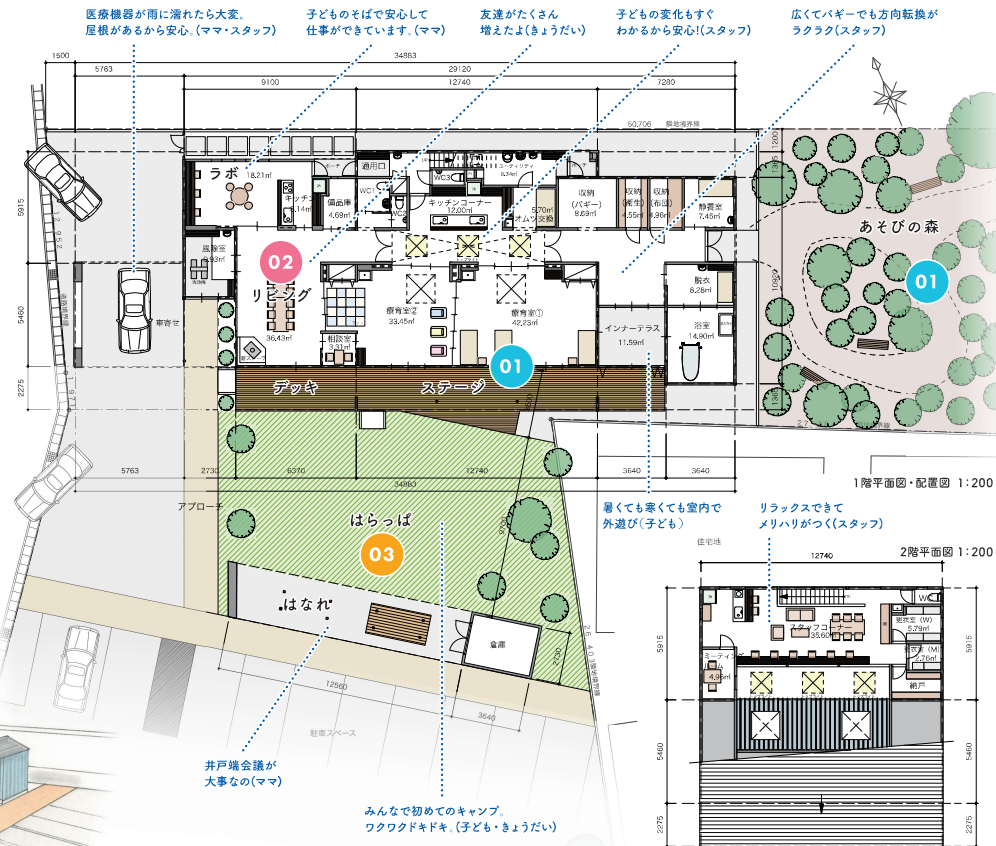
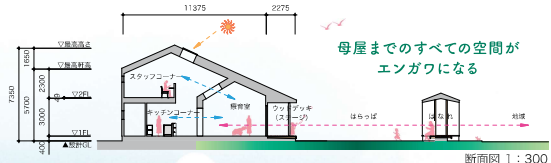
あそびの森

山林を残すことで在来植物を育て、虫や鳥たちが自然と行き交うインクルーシブな遊びの森へ。ハンモックにゆられ、木の道具で地域の子どもたちと遊ぶ。季節の変化で遊び方が無限に広がる場所。

大きなエンガワでみんなをつなぐ家

孤立を生むサイクルを断ち切り、「相互理解の起点」になる遊び場。

当事者である親たちが立ち上げたブランノは、子どもたちの「やりたい」気持ちや家族の想いに寄り添ってきました。地域から孤立し「人の目が怖い」と感じている家族にとって「やりたい」気持ちをかええる場所は限られます。新拠点のテーマは「エンガワの延長による、繋がり再構築」です。「ウッドデッキ」が内と外の境界をぼかし、さらに「はらっぱ」や「森」、「はなれ」が中間領域となりゆるやかに地域とブランノを融合させていきます。その結果、子どもたちと家族がそれぞれの距離感で地域と繋がれるように、医療的ケアが必要な子どもたちの「やりたい」を地域でかええていくことが「どんな人でもやりたいことに向き合える」未来に繋がり、社会をより豊かにしていきます。ブランノはその最初の一步を踏み出す場所です。



ブランノ棟	はなれ
1F床面積 303.49㎡ (91.62坪)	床面積 21.63㎡ (6.53坪)
2F床面積 60.45㎡ (18.25坪)	建築面積 21.63㎡ (6.53坪)
延床面積 363.94㎡ (109.87坪)	
建築面積 375.12㎡ (113.24坪)	敷地面積 1884.75㎡ (508.81坪)



視点02

ママの想いを實現する場所



ラボ・リビング・デッキ

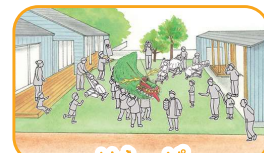
気が抜けないママたちがここでゆったり。お茶を飲みながら相談したり、薪ストーブの火を見つめたり、ついうたた寝したり。安らげる時間を日常に。

就労を諦めていたママたちに在宅ワークの場を提供してきたブランノ。次のステップは職業選択の幅を広げる取組み。地域と繋がり新たな仕事を生み出す実験の場へ。

将来への不安から子どもの成長を素直に喜べないママたち。ブランノの取組みは医療的ケアが必要な子どもたちに働く選択を生み出すことに繋がる。18歳以降の自立や職につき後を見届けた支援が将来への安心に。

視点03

子どもたち家族が頑張らなくても気ままに地域と繋がれる場所



はらっぱ

運動会やキャンプ。地域のお祭り「じゃがまいり」が舞う。色んな使い方ができるはらっぱで、子どもたち・家族・地域住民がそれぞれ「居心地のいい距離感」でお互い繋がる。



はなれ

送迎ついでにちょっとおしゃべり。散歩の途中で一休み。週末にはバナナおじさんの野菜市。ここから始まる「気軽に気楽な」地域の繋がり。

視点04

「遊ぶ」「学ぶ」「働く」「繋がる」未来の変化も見据えた可変型のゾーニング



打合せ時には仕切りを閉めてクローズドな場所に。ラボとリビングをつなげてみんなでお菓子作り。療育室まで拡張すれば60人規模の研修が可能。可変型のゾーニングが未来の変化に柔軟に対応。